



Giant buttercup (通称：マウントクックリリー)



Tutukiwi (欄の一種)



アーサーズバス駅近くで野生のケア
道路を歩いて横断していく



ワイマカリリ川の広い河原 ルピナスの大群落が見える

アーサーズバス駅の近くのカフェでアフタヌーンティー。カフェを出るとなんと野生のケアが一羽入り口の空き箱を啜って道路を歩いているではないか。

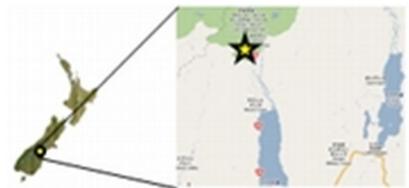
帰りは車でクライストチャーチまで。一般道のフリーウェイを時速 100 km で帰る。

帰り着いたのは7時半ごろ。ガイドさんは往復の運転、ハイキングそして帰り道でも途中の説明をしてくれて大活躍。お疲れ様でした、ありがとうございました。

(4日目)

3度目のマウントクック 今度の天気は？

12/7 雨のち晴れ



マウントクックへ乗合観光バスで移動。

朝から雨で寒い。クライストチャーチを出発してしばらくすると、雨も上がり前回同様途中で休憩を取りながら一路マウントクックへ。テカポ湖ではシーブドックの銅像と良き羊飼いの教会を見学。今回は周辺にルピナスが満開でなかなか良い景観。プカキ湖ではだいぶ天気も回復し対岸の雲の上にマウントクックが見えてきた。マウントクックの左 LowPeek と右 Peek ではかなり高さが違って見えるが、マウントクックヴィレッジから見るとほぼ同じ高さに見え、さらにフッカー氷河湖から見ると LowPeek の方が手前に高く見える。それだけ近く



ルピナスに彩られる「よき羊飼いの教会」



テカボ・ツイゼル ロードの両側に咲くルピナス（乗合観光路線バスにて）

に行っているという事になる。この周辺からはルピナスが次第に少なくなってハーミテージに到着するころは、ほんの少し残っている程度になる。だいぶ駆除処理に力を入れたようだ。



ブカキ湖はんより望むマウントクック

（国定公園内のみで周辺には手が回らないそう） 天気の方はすっかり回復し、多少雲はあるもののマウントクックも裾野から山頂まできれいに見える。3回目にしてまたも晴れとなった。ちょっと早めだったがフロントに行ってチェックインした。フロントでは、

「今回で3回目、前回フロントでもらった案内書で村を見渡せる丘と書いてある Redtern へ行ったが大変きつかった。」

「よく行きましたね。レッドターンは階段につぐ階段でしょう。」

「案内書に初級と書いてあるが、登りは階段で簡単ではないと書いてほしいですね。」

「私には何とも言えません」

といて受付していたお姉さんが笑っていた。少し英会話してキーを受け取ると、またしてもアオラキウイングにアップグレードされており、昨年より1フロア高い818号室。

余り良い天気なので、さっそくハイキングの準備をしてフッカー谷方面に行くことにした。夕食を19:30で頼んだので19:00頃までに帰り着けばよいだろうと15:00に出発。

ケアポイント方面に行き、キャンプ場経由でフッカー谷を目指したが、途中でフッカー谷方面への分岐があるではないか。たしか去年はそんな道もなく気が付いたらケアポイントと



ハーミテージ アオラキウイング 818号室より望むマウントクック



フッカー谷方面ハイキングコース
正面はマウントクック

セアリタンの分岐点だったが、この位置からフッカー谷方面に行けるようになったのなら、かなり楽になる。新しい道だ。ほどなくキャンプ場の外れフッカー谷コースの入り口に到着。慰霊塔を過ぎてミューラー氷河湖展望台へ。帰ってくる人は多いが、我々のようにこれから行く人もちらほら見られる。第一のつり橋を渡り第二のつり橋を目指す。去年と比べ、花の種類も豊富だ、小さな花がいっぱい咲いている写真を撮るのに忙しい。時期の違いで、高山植物の花がたくさん見られる。明日の朝の様子でまた歩こう。



New Zealand bluebell



Leathery-leaved mountain hebe



Dainty daisy



フォックスグローブ



Wild spaniard

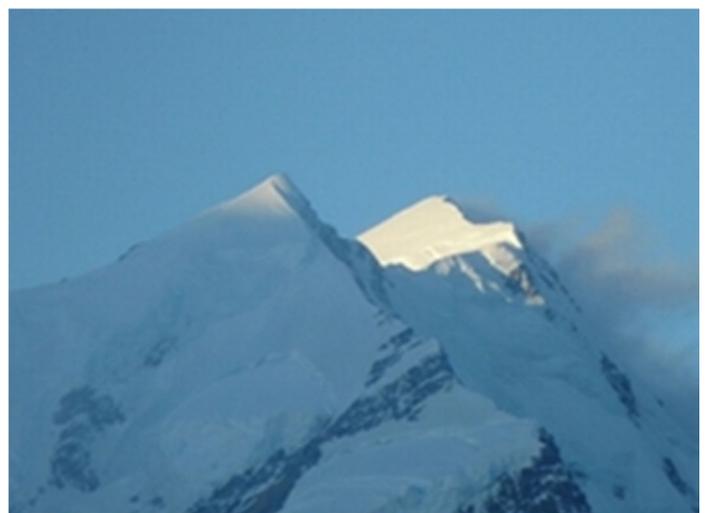


Scarlet snowberry



ハーミテージの夕食はバイキングだが、サーモンの燻製がすごくおいしい。ここは食事については自分のお腹と相談しながら美味そうなものだけ食べられるのでありがたい。

寝る前に、夜空を撮影するために自作してきた簡易赤道義を持って外に出る。正面入り口から少し先に芝生でホテルの明かりを避けられる場所を探して行くと、先客がいた。懐中電灯で照らしてしまったので、思わず「失礼」と日本語で言うと、先方も日本人だったようで、「南十字星はどれですか？」と聞かれてしまった。ちょうどホテル側から登る状態で、やっと南十字星が見え始めてきた。さっそくセットして写真撮影開始したが、時間はすでに 12:00 を回っており、正面玄関が閉まる時間を聞かなかったのもちょっと気になりワナカでも撮影を予定しているので早々に引き上げる。



マウントクックの残照 (手前が LowPeek) 9:55PM)



オリオン座（日本と上下が逆さまに見える：ISO1600 60秒露出 23:57

（5日目）

のんびりとリゾート気分 12/8 朝曇り

10:30 頃から晴れ



マウントクック側は雲が一面覆っている。

少したつと上がるか？

今日はホテル周辺の散歩だけで午後ワナカに向かうことにする。

ホテル裏の Glencoe Track（40分）をのんびり登ってみることにした。ここからもマウントクックビレッジが一望できる。

ホテルのbuffetで昼食後、乗合観光バス（グレートサイツ）のクイーンズタウン行きに乗る、何故か満席。なんと一台のツアーバスがエンジントラブルとか、でその乗客がこちらのバスに移乗したためらしい。そういえばこのバスの運転手が、横のバスのエンジンルームに手を突っ込んでなにやらしていたので手が油で真っ黒になっていた。少し遅れて出発した。

我々は途中のタラスで乗り換えの予定。ちゃんと乗り継ぎができるかちょっと心配。タラスに到着。降りてみると駐車スペースの横にガソリンスタンド、その横の細い道を挟んでメリノショップ、細い道路の奥に数軒の店？それだけ。バスの運転手が我々の荷物をおろし、「乗り継ぎの車は5時にここにくるから」と言って我々を残してバスは出て行った。



Glencoe Track 入り口



Mt.Cook Vireg を一望する



タラスの駐車場

この周辺はゴルフ場が多く、安くコースを利用できるのでゴルフ好きの人に人気の場所らしいが前の道は時々車が通過（時速 100km 前後）。写真を撮っているうちに 5 時少し前にワナカタクシーと書いたワゴン車が到着。予約チケットを見せて OK と、行き先を B&B ささの木と伝えたが、しきりにチケットを見ている。もしかしたらと思い、住所の書いてある日程表を出し、目的地はここと示すとやっとわかった様で荷物を積んで出発。いままで大きなバスで高い位置から周りを見ていたが、ワゴンタクシーは見線が低くなるので、周辺の景色が違って見える。広い牧場に羊や牛が点在しているがその中を時速 100km で砂利道もなんのその突っ走る。

ささの木の奥さんが出迎えてくれてやっと日本語で話せる。緊張が解ける。リビングの窓からワナカ湖とその向こうに明日登るアスパイアリングの山並みが夕日をバックに見えている。とは言ってもあと 3 時間は明るい。部屋に案内されたが、部屋の窓からも湖と山が良く見え、



B&B ささの木（ワナカの町から車で 5～10 分）

毎日この景色を見ながら生活しているのがうらやましい。

夕方娘さんの「れのん」ちゃんをご主人の車で帰ってきた。明るくて楽しそう。ご主人はまだ仕事があるのでそのままワナカの町に戻った様子。先にお風呂をというので、二階の浴室へ、広くて久々に湯船にお湯を張って日本式入浴。風呂から出ると間もなく夕食との事で



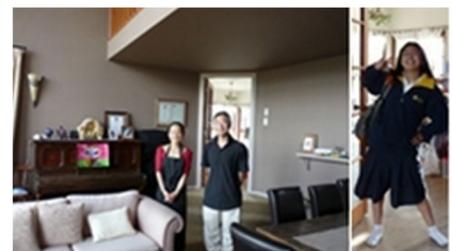
部屋の窓からワナカ湖と Mt. Aspiring

リビングダイニングへ。途中かられのんちゃん、ご主人が同席するかもしれないとの事。いろいろ話も聞けるので歓迎。れのんちゃんはソファテーブルで何やらお勉強中。我々がいても全く気にならない様子で何やら単語探しをしている様子。

食事はコースで頼んであったが、日本人の味覚で料理されており今までのようにドカと言うわけでもなく工夫されていておいしかった。

途中かられ

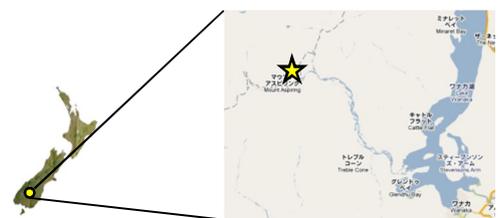
のんちゃんも夕食に加わり（7:30 を回っていた）そうこうしているうちにご主人も帰宅し、テーブルに合流しビールをうまそうに飲み始め、話が弾む。10:00 過ぎにはれのんちゃんは就寝、そのあと奥さんもワイン片手に参加し、気が付くともう 12:00、明日はいよいよロブroy氷河へハイキングだ。空をみると星空。写真も撮りたかったが、ハイキングに備えて寝ることにした。



ささの木の家族一同 右はれのんちゃん

（6日目）

いよいよ氷河見学 12/9 快晴



日本式の朝食を頂いて、ガイドさんを待つ。どうやら本日もプライベートガイドの様だ。車を走らせながら、「明るいうちに戻れば良いので、足の遅いのは問題ないですよ。9 時までには帰れます。」と、途中ワナカのメインストリートを抜け、大きな岩山が多い地区を過ぎる、ここはロッククライマーが良く来るとの事、ワナカは日本ではあまり知られていないが、NZ の人たちの中ではリゾートとして有名で、これから夏休みになると NZ 人でいっぱいになり、人口が 10 倍程度になる事など教えてくれた。ワナカ湖の対岸を少し走ると、そこから先は砂利道となり、個人所有の牧場の中を通らせてもらってロブroy氷河ハイキングコースの入り口まで行くというのである。そういえば両側は牧草地で、羊や牛がうろうろしている。

スタート地点から、最初は牧草地を川沿いに歩き、吊橋を渡りブナの原生林へ。小鳥の声もにぎやかで、体長が小さくピンポン玉を少し大きくした位の Riflman や尾羽を扇のように広げてきれいな Fantail、そのほか途中で立ち止まって説明してくれる。

少し進むと、このコースの最大の登りとの事。「山に入るときは時計を持ってこないんです。

日が長いので時間を気にすることはありませんし、時間を気にしながら歩いていたのでは、自然がゆっくり楽しめないでしょ。」とほんとに自然を楽しめて最高だ。最大の登りをクリアするとまたなだらかな道が続く、途中所々でロブroy氷河が仰ぎみられる。



Riffman 一番小さな鳥



ブナの実に生えるきのこ



Tutukiwi (欄の一種)



雪解水の長い滝、強風で霧となる

ブナの木に寄生する豆のようなきのこを見たり、アーサズパスでも見つけたランの一種 Tutukiwi を発見、ガイドさんも今年初だそうで先週は無かったそうである。ロブroy氷河の見られる河原に到着。先に来た人たちが大きな岩に腰かけてお昼を食べている。我々も適当な岩を見つけてお昼にする。ここで注意！ この付近には野生のケアがいて人がお昼をたべ



ロブroy氷河の全景 正面が懸垂氷河 ここからは2km程離れている、氷河の厚さは10m位あると言う



氷河先端には無数のクレバスが見える



昼食を食べているハイカーの左側の杭の上に野生のケアがいる

ていると、人の少し後ろ離れたところにそっと降り、後ろに置いているザックや食料などを取ってしまうので、ザックやタオル、帽子など持ってきたものは必ず前に置くようにと。言っている間もなく前方で昼食後くつろいでいる4人のそばにケアが飛んできて、地上を歩いて荷物のそばに寄っている。

ガイドさんがお弁当を出してくれた、どうやらずっと我々の分も運んでくれたようで申し訳ない。途中の沢で汲んだ冷たい水でジュースを作ってくれた。食後には温かい紅茶も頂いた。お昼はアーサズパスと同様、大きなサンドイッチとマフィン、リンゴとバナナ。この暖かさで時々氷河が崩落するが、音が聞こえた時に見上げたのではすでに崩落は終わって落ちてしまっているのではなかなか見ることができない。ここから氷河までは2kmほど離れて

いるそうで、氷河の厚さも 10m 近くあるそうだ。小さな崩落は音からすると結構起きているようだ。氷河を見上げながらサンドイッチをほうばる。



ロブレイ氷河の大崩落 落ちた氷河が岩に当たり砕け雪煙を上げてさらに下に流れ落ちる

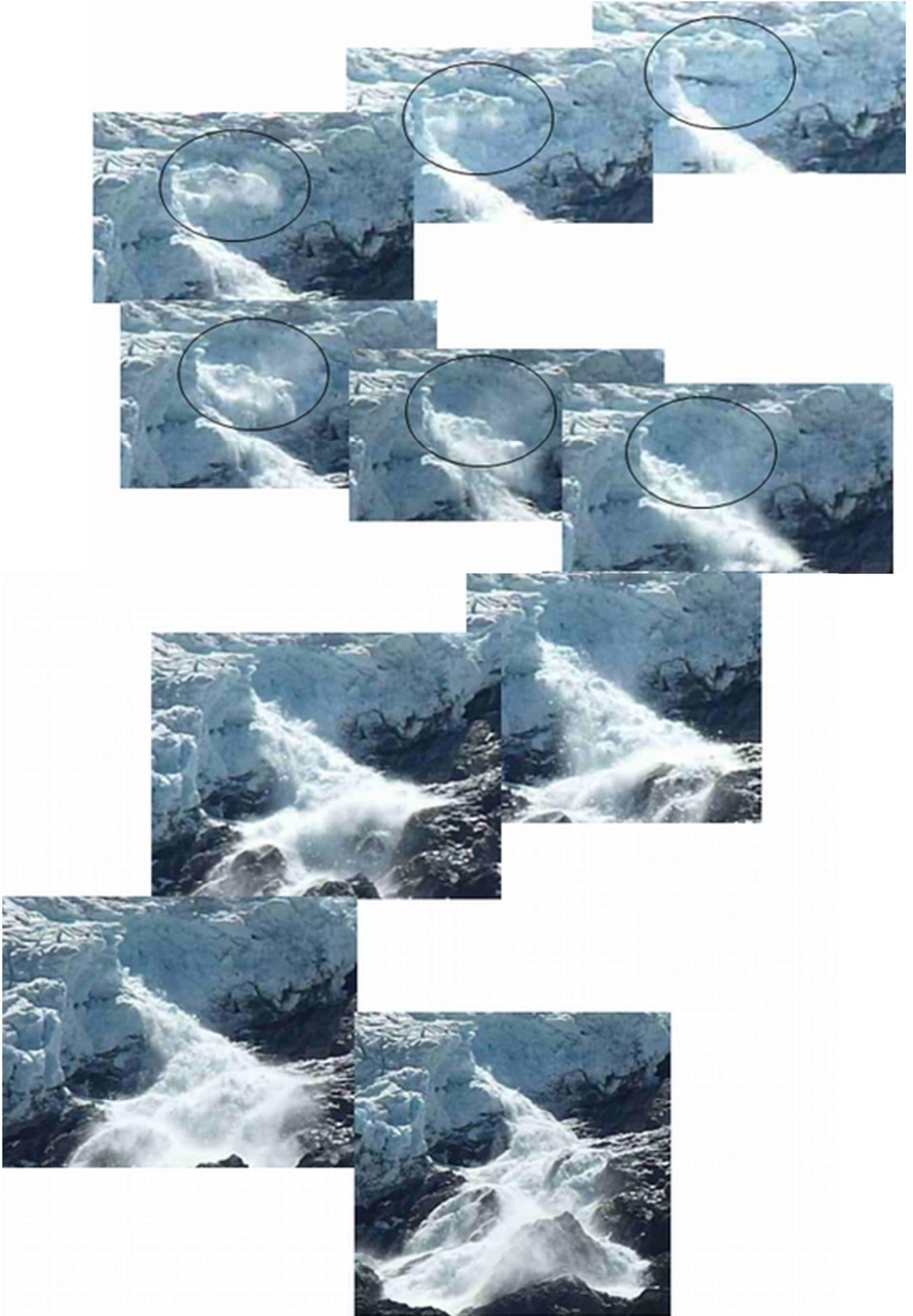
だいぶゆっくりしたのでそろそろ帰ろうと、2人の記念撮影をしてくれた。そして見納めと氷河を見上げていたら偶然、「あっ、さっきから崩れているところがまた大きく崩れだした！」と運よくビデオモードにしてあったカメラで崩落した直後の氷河をズームアップで撮影、下の岩に大きな雪煙をあげて氷河が落ちていく。とその少し左側のクレバスから小さな氷河の塊が落ちるのを発見、そちらに向けてさらにズームアップした瞬間、そのクレバスの右の淵が大きく崩れ落ち始めた。大崩落だ！下の岩の上に雪煙をあげて落ちていく氷河を追い、さらにその下の段の雪解け水の滝に崩れた氷河が雪煙をあげて流れ落ち下のテラスに積みあがっていくのを記録することができた。今回の最大傑作映像かもしれない。まわりにいたハイカーからも歓声が上がっていた。

自然による最大のショーも終わり、興奮も収まってきたので。何度も氷河を振り返りながら帰路に就く。

帰り道は、のんびりと小鳥の影を探しながら、持ってきたバードコールでもっと近くに寄ってこないかと遊んでいると、ガイドさんと妻が私の後ろを指さして口をパクパク。なんと私のすぐ後ろ 1m のところに 1羽のケアが立ち止まって見上げている。小鳥探して皆が原生林の枝を見透かしていたので誰も気が付かなかったが、どうやら我々の後をそっとついてきていたらしい。そーと座っても逃げるそぶりを見せない。私の手の中で鳴らしてい



Rifflman 一番小さな鳥 全長でも 8cm ほど



るバードコールが気になる様子で覗き込んでいるようだ。左手を開いてそーっとケアの方に出して見たが、逃げることもなく、右手に持っているバードコールを見つめている。ケアと左手の距離は 50cm 位。よほどバードコールが気になるらしい。登ってきた 4 人組も立ち止まってケアを観察。いつまで遊んでいてもきりがないので、そーと立ち上がり離れると、先ほどのハイカーの一人が自分のザックをケアの方に放り出す。一瞬ケアが飛びのいたが、今度はそのザックをつつき始めた。ザックに乗ってチャックの金具を引っ張ったり、ふたの中にくちばしを突っ込んだり。見ていて飽きない。おそらく 10 分近くケアと遊んでしまったのではないか。



私の右手に持つバードコールに興味があるケア



ハイカーのザックをつつきまわすケア



Matukituki 川に流れ込むロプロイ氷河の解けた水（右）氷河の解けた特有の白っぽい水が合流

最大の坂も無事下りおえて、牧草地へ。ここまでくればもうスタート地点まではすぐ。ロプロイ氷河まで行ってきたという満足感と無事下山のほっとした感覚のところに来て、子連れの羊たちがのんびりと草を食べている中、お邪魔様と言うようにのんびり歩くと、何ともいえない癒される感じ。今まで味わったことのないほわーとした感覚だ。ガイドさんが突然止まってそーと牧草の中へ、何か捕まえた。往きに話していた体長 2 cm 足らずのセミ。一丁前にセミの格好で透明な羽。珍しいものを見せてもらった。



侵入者を迷惑顔で見守る羊の親子



芝生で鳴くセミ まるで秋の虫の声に似ている

宿に戻ったのは 6:00 を回っていた。サービス残業させてしまった。

最近 NZ は日本食ブームらしく、ご主人は明日ワナカ湖クルーズをしながら日本食のランチを食べるといった初めてのイベントをするため奥さんも 10:30 頃には店の方に行くらしい。寿司やうどんはあるが、そばは無いとの話から私がそばを打つと話したらワナカで一緒にやりませんかと来た。妻も着物着付けなどで日本文化の体験教室みたいになれば商売になると夢のような話をして楽しんだ。今日こそは星の写真をと思って表に出たが、あいにく雲が多くなってきて南十字星が見えないではないか。残念。日本語が使えるのも明日の午前中まで。そのあとはしばらく日本語ガイドもなくなる。大丈夫かな？

(7日目)

ほんとにバスが迎えに来るのかな？

これから英語だけだ 12/10 曇り強風



バスのピックアップが 12:00 なので、荷物を玄関の外に置かせてもらってワナカ湖畔の散歩をしようと思っていたが、玄関の鍵を預けるから、出発まで自由に使ってくださいとの事。



ワナカ湖畔のルピナス群生地 強風で立木の枝がなびいている
遠くには Adpirling が見える



ワナカ湖面が強風で白波が立っている 寒い

今日は曇りで強風。このくらいの時期までは曇って風の強い日が続くのが普通なのだが、今年は少し前から穏やかな良い天気の日が多かったようだ。

ご主人のせっかくのイベントだが、強風で心配だ。玄関のカギを締め、入り口でピックアップのバスを待っていたが予定時間をかなり過ぎて、黄色い小型バスが荷物用のトレーラを引っ張って来た。スケジュールでは CityBus と書いてあるが車体には Connect と書いてある。まあ、迎えに来たのだから間違いないだろう。トランクは後ろのトレーラに乗せるのだが、なにやら牧草が入っていたような跡があり埃だらけ。

一路クイーンズタウンへ。と思ったら、途中クロムウェルで同じ黄色の車体のバスの横に止まり、運転手が「クイーンズタウンへ行く人はみんな隣のバスに乗り換えてください。」 「えー、聞いてないよ。バスの調子が悪いのかな？」 そうではなく、クロムウェルが Connect バスのハブになっているようでここで目的方面のバスに乗り換える様になっているらしい。荷物も積み替えてクイーンズタウンへ。無事ノボテルホテル着。

湖畔から町をぶらぶら。妻がベーカリーで書いてあるから入って見ようと、地元のパン屋さんへ。朝食用のパンを調達し少し進むと小さなスーパーがあり、結構人も入っているのでこちらものぞいてみる。サラダ用の野菜も切っており自分で袋に詰めて量り売りされている。チーズとヨーグルト、ハムとリンゴまで買い込んだ。せっかく教えてもらったのだからフレッシュチョイスにも行こうと、中心部から少し歩いてスーパーを発見。先ほどの店よりはかなり大きい。杏子がたくさん出ていたので思わず買ってしまった。どう見ても観光客の取る行動ではないなあー。

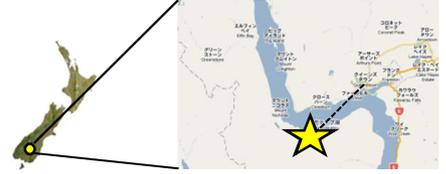


NOVOTEL HOTEL 中庭のバラ

(8日目)

絵葉書の様な蒸気船に乗って、牧場で乗馬

でも英語だけ 12/11 晴れ



晴れている。山沿いに少し雲が残っているものの日差しがまぶしい。昨日調達した朝食をすませ、早めにホテルを出て集合場所へ。今日はウォルターピーク牧場で乗馬だ！ 湖畔の公園はサタデーマーケット。食器、絵画、民芸品、本、石鹸、そのほかいろいろな露店が出て、なかなかにぎやかだ。妻はさっそく良い香りのするケーキ型の石鹸を買ってしまう。デコレーション部分が壊れないようにと大事にザックの中にしまいこむ。



今日も絵葉書の様なワカティブ湖



蒸気船発着所前の公園のサタデーマーケット
ケーキの様な石鹸屋さん 香りを確認

時間になったので集合場所に。土曜日という事もあり、またもう夏休みに入ったこともあり、海外の観光客と地元の子供を連れた観光客で結構たくさんの方がウォルターピーク牧場に行くようだ。ただ、我々に渡されたチケットとは違う色のチケットを持った人の方が多い。



蒸気船 TSS アーンスロー号に乗船



98歳のアーンスロー号メインデッキ/サロン
出航すると間もなくピアノ演奏が始まる

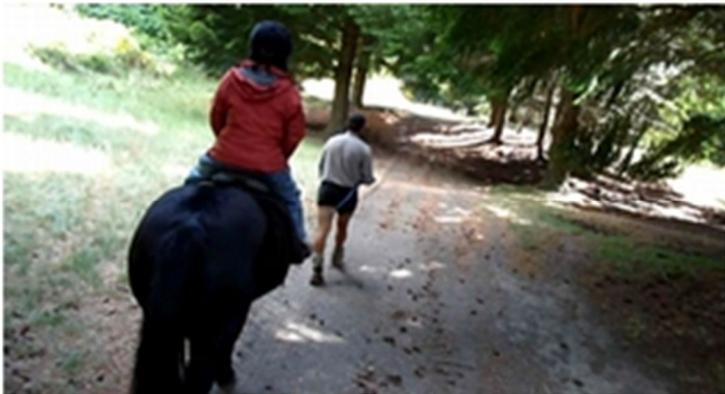
ワカティブ湖を渡る蒸気船 TSS アーンスロー号(1912年に建造された蒸気船で、ワカティブ湖周辺の牧場への物資輸送に使用されていた)に乗船してよいよ出発。乗船してすぐ蒸気機関が吹き抜けから下に見え暑い空気が登ってくる。とりあえず船内をぐるっと回ってみる。そこで発見したのは、船尾側(メインデッキ・サロン 日本語案内書で知った)になんとピアノが置いてあるではないか。出航すると間もなく、ピアノ演奏が始まった。なんとも優雅な船旅である。対岸の湖畔までせまる丘? 山はエニシダの花で黄色く彩られそれ以外では黄土色した牧草や地層をうかがわせる少し斜めの岩などが見られる。遠くには残雪のある山が見え、飽きることない船旅。まもなくウォルターピーク牧場に到着。

チケットを見せると、あそこの半ズボンのガイドの所に行くよう言われ、そちらに行くとちょっと歩くがこちらに来てくれとほかの乗客とは別行動。乗馬は我々だけらしい。またプライベートツアーになってしまった。牧場の中を少し行くと厩舎があり、その横の小屋（事務所か物置かわからないような小屋）でヘルメットの山から自分に合ったヘルメットを探し、荷物はカメラとサングラスを除いてその辺に置いてくれと。ヘルメットをかぶってよいよ馬に。乗馬したことはあるかとの質問に、私は2回目、彼女も2回目だが怖がりなので初めてと同じだ、と言うと、大丈夫子供も乗れるのだから、彼女の馬は私がこのロープで引いてあげると。最初に妻が馬上の人に、次に私が乗馬、ガイドが妻の馬の轡にロープを付けいよいよ出発。歩かせるときは「チッチッチ」と口をならせば歩き出す、止まりたいときは手綱を引けばよいからと牧場の中へ。



ウォルターピーク牧場 エニシダが背後の山を彩っている

なんとガイドのおじさんは妻の馬を歩いて引いていくではないか。乗馬時間はたしか1時間程度、おじさんずっと歩きになってしまった。お供にシープドックが付いてくる。少し



馬に乗っていざ出発 おじさん歩かせちゃってごめんなさい



馬上の高い目線で眺める牧場とその周辺の景観

行くと緩やかな上り坂。まもなく右側に牧場の栈橋が見えてきた、結構登ってきていたのだ。牧場とワカティブ湖が見渡せ、裏の丘（山）がみえエニシダの黄色い花が一面咲いている。ウォルターピーク牧場はあの湖畔から、この見えている山の向こう側に今見えている範囲のちょうど倍くらい先までで、ガイドのおじさんはこの先はるか先に小さく見える家に住んでいるようだ。



ウォルターピーク牧場の中で馬と記念撮影
さすがに慣れてるガイドさん ベストポジション

小高い丘で記念撮影、撮り慣れている様で、素早くパチパチ。さらに少し進むとおじさんが突然馬を止めた。少し先の牧草の中で羊が1頭ひっくり返っている。我々が進んでいくとその辺にいた羊たちはいっせいに逃げていくのに、その羊は身動きもしない。どうしたのだろうと見ていると、おじさんがそうっと羊に近づく。シープドックも近くに寄ると突然羊が足